

NISA口座を開設したものの3人に1人が運用せず ジュニア NISA 口座受付開始にあたり、 制度・商品に関する理解度を高める工夫が必要

情報管理ソリューションのトッパン・フォームズ株式会社（以下、トッパンフォームズ）は、「NISA（=少額投資非課税制度）及びジュニア NISA」に関する調査を実施しました。今回の調査では、既に NISA 口座を開設している方のうち「開設しているが、運用はしていない」という方が 3 人に 1 人いる結果となりました。NISA 口座を開設する際に「制度全般」が分かりにくいと感じた方が多いことから、制度の難しさからくる理解不足が運用のネックになっていると考えられます。

一方、2016 年からスタートするジュニア NISA の認知度は約 35%でした。

ジュニア NISA に関する告知方法でうれしいものを聞いたところ、「金融機関の Web」が最も多く、次いで「ダイレクトメール(DM)」となりました。NISA では「制度が分かりにくい」など理解不足が生じていることから、ジュニア NISA を案内する際には、Web や DM、パンフレットなどのツールにおいて、理解しやすくするためのフォローが重要であると考えられます。

そうすることで、ジュニア NISA 口座を開設した後、スムーズに運用が始められるのではないのでしょうか。

【調査結果の概要】

1. NISA の認知は広まっているものの、口座開設者の 3 人に 1 人が運用していない。
2. NISA 口座開設時に悩んだことは「NISA によるメリットがどのくらいあるのか」ということ。100 万円の資金が必要になると誤解している人も。口座開設者の 3 割が「制度全般」が分かりにくかったと感じており、開設時の理解度を高める工夫が必要といえる。
3. 2016 年 1 月から受付が開始される「ジュニア NISA」の現時点の認知度は 35%。一方でお子さん・お孫さんの資産形成を考えている方は多いため、選択肢の一つとしてジュニア NISA 訴求の余地はあり。
4. ジュニア NISA の情報は「金融機関の Web」での告知が最もうれしい。DM やパンフレットによるアプローチもポイントが高い。男性は Web、女性は紙媒体を好む傾向あり。

トッパンフォームズは、企業と生活者のコミュニケーション課題を解決する「LABOLIS」で行ったさまざまな調査結果を活用し、お客さまと共にジュニア NISA の開設・運用を検討する生活者の目線に立ち、分かりやすく制度を伝えるためのコミュニケーションツールを提供します。

また、制度開始後は口座開設申し込みの受付やデータ入力、コールセンターでのお問い合わせ対応など、さまざまなバックオフィス業務を受託することで、お客さまの業務効率化をサポートしていきます。

【調査概要】

調査手法：株式会社ネオマーケティングによる Web アンケート方式で実施

対象者：お子さん・お孫さんがいる全国の成人男女

有効回答数：3,092名（男性 1,840名 女性 1,252名）

割り付け：①NISA口座を開設済・運用中 200名

②NISA口座を開設済・非運用 200名

③ジュニア NISA の利用意向あり（NISA口座の開設有無を問わず）200名

※ ③が①②と一部重複するため、①～③合計は 447名

実施時期：2015年7月21日（火）～2015年7月22日（水）

<<引用・転載時のクレジット表記のお願い>>

本リリースの引用・転載時には必ずクレジットを明記いただきますようお願い申し上げます。

〈例〉トッパンフォームズ LABOLIS 調べによると・・・

【LABOLIS（ラボリス）について】

お客様の個客コミュニケーション上の企画課題に対して、アンケートによる生活者調査や、視線計測調査、顧客データ分析などの科学的なアプローチを用いたサービスにより、お客様とともに最適な解決策の発見・企画を行います。

■詳しくはこちらをご覧ください。

URL：<http://labolis.toppan-f.co.jp/>

以上

※ 「LABOLIS」は、トッパン・フォームズ株式会社の登録商標です。

本ニュースリリースに関するお問い合わせ先

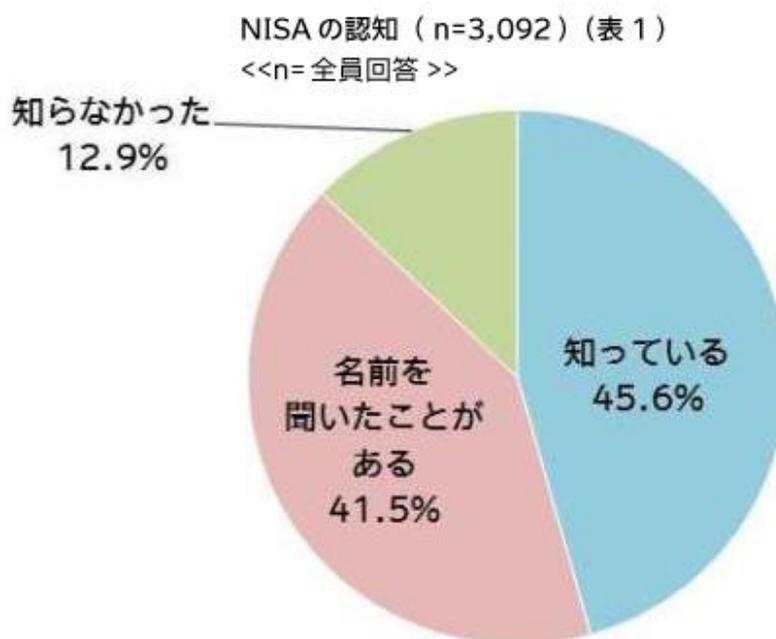
トッパン・フォームズ株式会社 広報部 TEL:03-6253-5730

TOPPAN FORMS News Release

(別紙：調査結果)

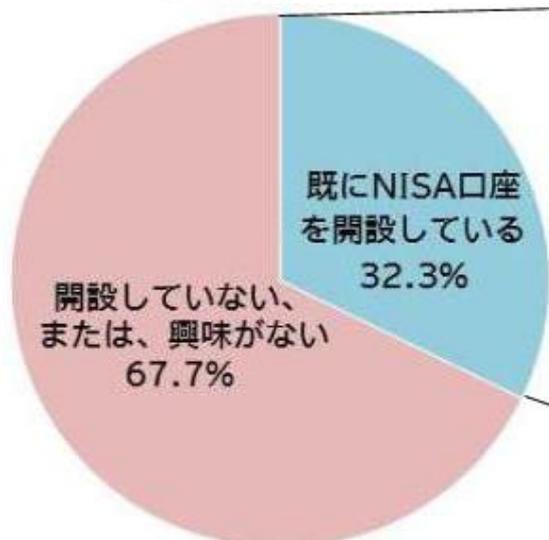
1. NISA の認知は広まっているものの、口座開設者の 3 人に 1 人が運用していない。

NISA について聞いたところ (表 1 参照)、「知っている」と回答した方が 45.6%、「名前を聞いたことがある」と回答した方が 41.5%と、合計して 87.1%となりました。NISA が開始され 1 年半という期間ですが、NISA は既に多くの方に認知されているようです。

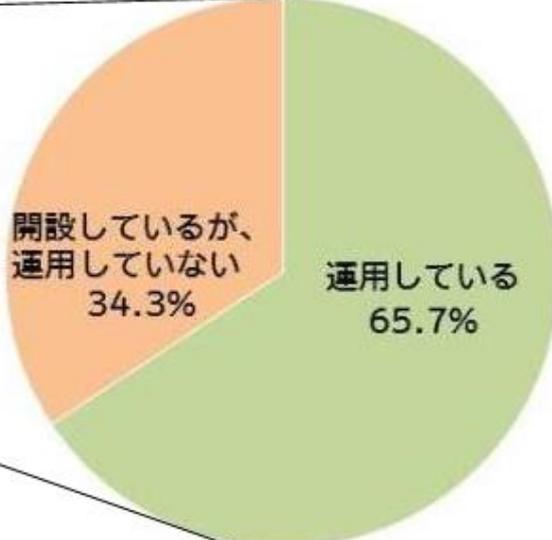


NISA 認知者のうち NISA 口座の所有率 (表 2 参照) は 32.3%という結果となりました。しかし、口座開設した方のうち (表 3 参照) 34.3%が「既に NISA 口座を開設しているが、運用はしていない」と回答し、今後、非運用者に対しての運用促進に向けたアプローチが必要だと考えられます。

NISA 口座の所有 (N=2,693) (表 2)
<<n=NISA 認知者回答>>



開設した NISA 口座の運用 (n=869) (表 3)
<<n=NISA 口座開設者回答>>



(別紙：調査結果)

2. NISA 口座開設時の悩みは「NISA によるメリットがどのくらいあるのか」。

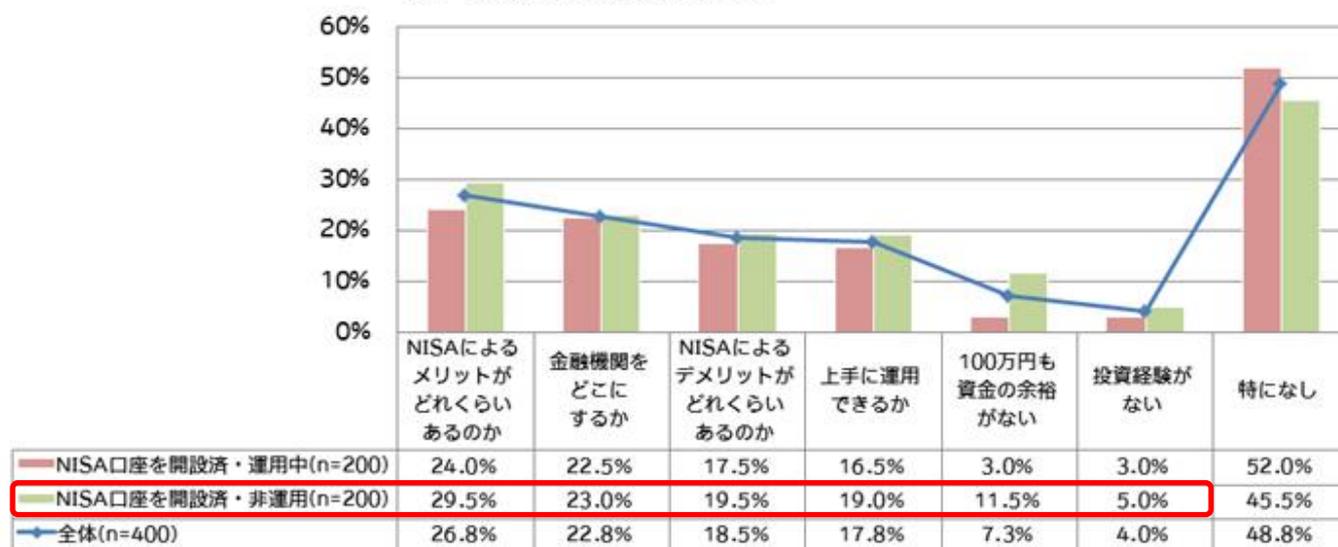
100 万円の資金が必要になると誤解している人も。口座開設者の 3 割が「制度全般」が分かりにくかったと感じており、開設時の理解度を高める工夫が必要といえる。

NISA 口座を開設している方に、開設するまでに悩んだことを聞いたところ (表 4 参照)、「NISA によるメリットが不明瞭」と悩んだ方が最も多い結果となっています。NISA 口座の運用状況で比較すると、運用していない方は全体的にポイントが高くなっており、開設の際に悩む方が多い傾向がわかります。特に、「100 万円も資金の余裕がない」では運用状況でポイントの差が大きくなっていますが、実際は 100 万円は上限であり必要金額ではありませんので、制度を正しく理解できていなかった状況が伺えます。

また、口座開設までに分かりにくいと感じたことを聞いたところ (表 5 参照)、「制度全般」が最も多くなりました。運用していない方は 4 割弱が分かりにくさを感じており、制度の難しさ・制度に対する生活者の理解不足が運用のネックになっていると考えられます。

NISA 口座を開設するまでに悩んだこと (n=400) (表 4)

<<n=NISA 口座開設者回答 >>



NISA 口座を開設するまでの不安感や疑問点、分かりにくいところ (n=400) (表 5)

<<n=NISA 口座開設者回答 >>

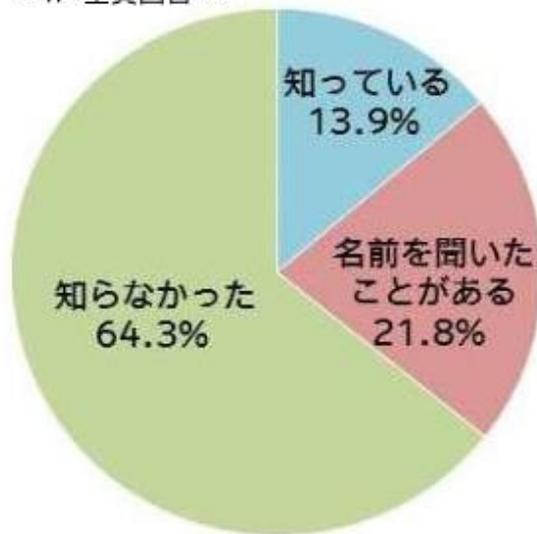


(別紙：調査結果)

3. 2016年1月から受付が開始される「ジュニア NISA」の現時点の認知度は 35%。
 一方でお子さん・お孫さんの資産形成を考えている方は多いため、選択肢のひとつとしてジュニア NISA 訴求の余地はあり。

次いで、2016年からスタートするジュニア NISA について聞きました(表 6 参照)。今まで NISA では未成年者名義の口座で取引ができませんでしたが、ジュニア NISA がスタートすることにより可能になります。まずは、ジュニア NISA の認知について聞いたところ、「知っている」と回答した方は 13.9%、「名前を聞いたことがある」と回答した方が 21.8%と合計 35.7%となりました。

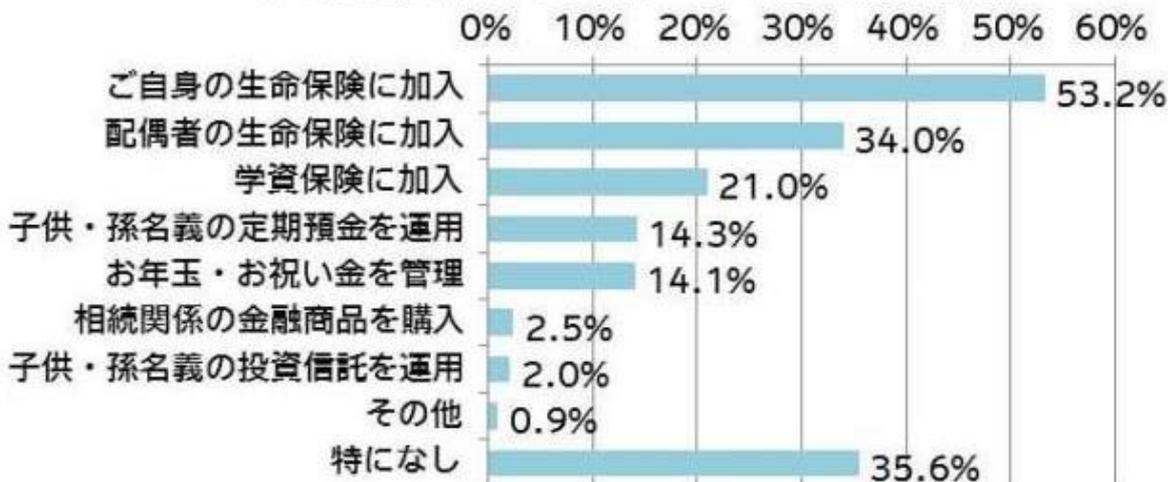
「ジュニア NISA」の認知 (n=3,092) (表 6)
 <<n=全員回答 >>



一方で、NISA 口座所有もしくはジュニア NISA 利用意向のある方に、お子さん・お孫さんの資産形成について聞いたところ(表 7 参照)、約 65%の方が具体的に対応を実施していることが分かります。

お子さんやお孫さん向けということは、ジュニア NISA の告知のキーワードになるのではないのでしょうか。

お子さん・お孫さんの資産形成について (n=447) (表 7)
 <<n=NISA 口座所有者・もしくはジュニア NISA 利用意向者回答 >>

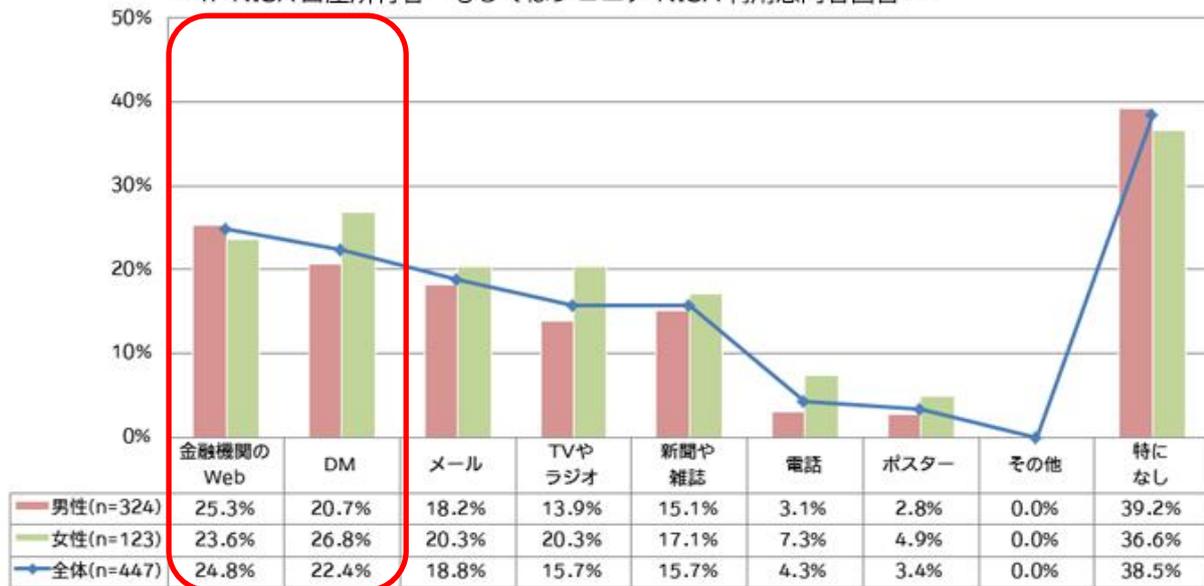


(別紙：調査結果)

4. ジュニア NISA の情報は「金融機関の Web」での告知が最もうれしい。DM やパンフレットによるアプローチもポイントが高い。男性は Web、女性は紙媒体を好む傾向あり。

情報入手するとしたら、金融機関からどのような告知があるとうれしいと思うかを聞いたところ(表 8 参照)、最も多い回答は「金融機関の Web」の 24.8%でした。次いで「DM」という回答が多く、特に女性では DM が最も多くなっています。

「ジュニア NISA」の口座を開設すると仮定した際の、
金融機関からの告知からでうれしいもの (n=447) (表 8)
<<n=NISA 口座所有者・もしくはジュニア NISA 利用意向者回答 >>



また、金融機関からのアプローチでも(表 9 参照)、「パンフレットなどを自宅に郵送してくれる」が最も多くなっています。NISA 口座開設時の不安点・疑問点(表 4・5 参照)では、特に口座を運用していない方が「制度が分かりにくい」と回答しました。理解不足が生じていることから、ジュニア NISA を告知する際には、WEB や DM、パンフレットなどのツールにおいて、理解しやすくするためのフォローが重要であると考えられます。

「ジュニア NISA」の口座を開設すると仮定して際の、
金融機関からのうれしいアプローチ (n=447) (表 9)
<<n=NISA 口座所有者・もしくはジュニア NISA 利用意向者回答 >>

